

従業員や利用客を守るための 防災の取り組み



「事業所防災リーダー」は、発災時に従業員や利用客を守り、一斉帰宅抑制の呼びかけを徹底します。そのため、平時から情報収集に取り組み事業所の防災の旗振り役を担っています。ここでは大規模事業所部門3社、中小規模事業社2社（計5社）の取り組みを1社ずつ紹介します。

働き方の変化に備え 防災の体制と運用を 全社で再設計

当社は、品川区の本社に138人、全社で357人が働いていますが、従業員の増加に加え、サテライト勤務・フレックスなどの定着により災害時に「今、誰がどこにいるか」を把握しづらくなりました。そこでコロナ禍を機に体制と運用を刷新。本社部門長、各拠点所長・マネージャー、CSR安全推進室所属者など23人を「事業所防災リーダー」として登録しました。災害時には初動対応、避難誘導、情報収集、社内連絡を役割分担して判断スピードを高めています。

社内共有ツールや訓練で 社員全員の防災意識を高め 地域とも連携を進める

災害情報は集めるだけでは意味があ

りません。そこでCSR安全推進室では気象庁・東京都などの情報を整理し、全社で日常使いしている社内コミュニケーションツールで共有できる仕組みを構築。スマホでも確認できるため閲覧率は非常に高く、豪雨・台風前の研修中止の連絡に使うなど、災害時の非常時連絡の手段として活用しています。

社員が帰宅困難者とならないためにも、災害時はむやみに移動せず安全確保を最優先にする「職場待機」が基本です。



災害時にすぐに対応できるよう防災リュックは各席に設置。椅子も防災リュックがぴったりとはまる形のものと変更した。

東京都事業所防災リーダー優良企業

大規模事業所部門

トヨタL&F東京 株式会社

品川区に本社を置き、フォークリフトなど物流機器の販売・レンタル・点検整備で現場を支援する同社は、社内コミュニケーションツールでの情報共有、フォークリフト給電など、強みを生かした防災対策を推進しています。

事業所防災リーダー（左から）

管理部 広報採用グループ GL 池田裕子さん
CSR・安全推進室 室長 井口正喜さん
取締役常務執行役員 高梨幸洋さん
CSR・安全推進室 エキスパート 近藤克実さん

の参加型「防災ミーティング」を始めました。地域特性に合わせた対策の議論で理解が深まり、防災意識の向上にもつながっています。

今後も全従業員が実践訓練に参加できる仕組みづくりと、機器の更新・改善を継続予定です。「日常のコミュニケーション基盤を災害対応に接続し、地域にも力を還元する」。その積み重ねで災害時にも止まらない会社をつくっていきます。



フォークリフトのバッテリーを活用した給電装置により災害時でも照明・充電といった必要最低限の電力確保ができるのも強み。

そのため3日分の備蓄を確保し、ヘルメット、飲料水、アレルギー物質不使用の非常食、ペンライトなどをセットにした防災リュックを全員に配布。簡易トイレも人数分を確保し、備蓄庫は鍵をかけず、誰でもすぐに取り出せる運用にしています。

当社ならではの備えがフォークリフトのバッテリーを電源として活用する仕組みです。外部給電器はソリューションベース板橋に常備し、本社への整備も含めて全拠点への展開を進めています。さらに品川区と災害時のフォークリフト貸与に関する協定を締結し、警察・消防向けの操作教育も行ってきました。「災害時帰宅支援ステーション」への登録や、国道15号徒歩帰宅者支援対策協議会での副会長就任など、地域連携にも取り組んでいます。

社内では消防署立会いの避難訓練やAED講習に加え、2023年から拠点ごと